

九大フィルハーモニー・オーケストラ 第216回定期演奏会

指揮

鈴木優人



©Marco Borggreve

ヴァイオリン独奏

廣津留すみれ



©Ryuto Kurokawa

2026

6/6 (土)

アクロス福岡シンフォニーホール

開場 13:00 開演 14:00

●全席自由 1000 円

※未就学児膝上鑑賞無料



電子チケットはこちら↑

ロッシーニ / 歌劇「セビリアの理髪師」序曲

Rossini / The Barber of Seville Overture

コルンゴルト / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

Korngold / Violin Concerto in D Major Op. 35

チャイコフスキー / 交響曲第6番 口短調 作品74「悲愴」

Tchaikovsky / Symphony No.6 in B Minor Op. 74 "Pathétique"

● チケット販売先

- ・チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード: 321-561
- ・アクロス福岡チケットセンター TEL: 092-725-9112
- ・アクロスWEBチケット <https://www.acrosticket.jp>
- ・teket (電子チケット) <https://teket.jp/15612/63854?uid=pr>
- ・CURTAIN CALL (配信チケット)
<https://curtaincall.media/member/page/live/kyudaiphil>

主催: 九大フィルハーモニー・オーケストラ

共催: 福岡県、福岡市、(公財)アクロス福岡、
(公財)福岡市文化芸術振興財団

後援: KBC、RKB毎日放送、九大フィルハーモニー会

● お問い合わせ

広報(日高): 050-1809-2091

E-mail: qdaiphil@gmail.com

公式HP: <https://kyudaiphil.com>

鈴木 優人



バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティブ・パートナー、関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。2025年1月にBCJヨーロッパ公演にて自身の補筆校訂版によるモーツァルト《レクイエム》をパリ、マドリッドなど7都市で指揮。11月にはパリ管弦楽団と初共演し、現地で好評を博し

た。鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズにおけるモンテヴェルディ：歌劇《ポッペアの戴冠》(2017)、ヘンデル：歌劇《リナルド》(2020/第19回佐川吉男音楽賞受賞)、歌劇《ジュリオ・チェザレ》(2023)では、バロック・オペラの新機軸を打ち出した。Bunkamura Produceのモーツァルト・オペラシリーズでは、《魔笛》(2024年/美術：千住博)、《ドン・ジョヴァンニ》(2025年/美術：杉本博司)に続き、26年2月に《フィガロの結婚》(美術：隈研吾)にBCJと共に取り組む。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演するほか、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」などメディア出演も多い。録音はBCJとのJ.S.バッハのチェンバロ協奏曲集 (BIS)、タメスティとのデュオ (Harmonia Mundi) の他、昨年3月にはJ.S.バッハの平均律第1巻 (BIS) をリリース。作曲、編曲はもとより、バッハの消失楽章の復元も多数手がける。ブルーノート東京にも定期的に出演するなど、その活動に垣根はなく、各方面から大きな期待が寄せられている。東京藝術大学卒業及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。令和2年度(第71回)芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回(2021年度)渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。九州大学客員教授。

X / @eugenesuzuki

Facebook & Instagram / masatosuzukimusic

● アクロス福岡へのアクセス ●



〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神0丁目1番1号
福岡市地下鉄空港線 天神駅から徒歩5分(16番出口直結)
地下鉄七隈線天神南駅から徒歩7分(5番出口)
西鉄福岡天神駅から徒歩10分
バス停「アクロス福岡・水鏡天満宮前」から徒歩0分
バス停「天神4丁目」から徒歩3分
バス停「天神中央郵便局前」から徒歩5分

廣津留 すみれ



大分市出身。12歳で九州交響楽団と共演、高校在学中にNY・カーネギーホールにてソロデビュー。ハーバード大学在学中に世界的チェリスト、ヨーヨー・マ氏との度々の共演を経て、米国を拠点に演奏活動を展開。自身の四重奏団を率いてリンカーンセンターやMoMA近代美術館にて演奏するほか、ワシントンDCのケネディセンターにて野平一郎氏と共演。

The Knightsとして録音したギル・シャハムとのアルバムがグラミー賞2022にノミネート。近年はソリストとしてデンマーク国立フィル日本ツアーへの出演のほか、全国でリサイタルツアーを開催。東京フィルハーモニー交響楽団など主要オーケストラとの共演をはじめ、ジャズトランペッターのクリス・ボッティとの海外公演やブエノスアイレスでのタンゴアルバム録音など、ジャンルを超えて活動中。「題名のない音楽会」「徹子の部屋」(テレビ朝日)「歌える！青春のベストソング」(NHK)などでの演奏も話題に。これまでに、辰巳明子、川崎雅夫の各氏に師事、室内楽をロナルド・コープス、ジョセフ・リンの各氏に師事。ハーバード大学卒業、ジュリアード音楽院修了。現在、国際教養大学特任准教授、第13期中央教育審議会委員。

九大フィルハーモニー・オーケストラ

九大フィルハーモニー・オーケストラは、九州大学の学生を中心に構成される、日本でも有数の永い歴史と伝統を持つアマチュアオーケストラである。現在、100名以上の部員が所属し、年2回の定期演奏会を目標に、精力的に活動している。1909年に九州大学の前身である福岡医科大学の榎保三郎氏によって創立され、以降、石丸寛氏や荒谷俊治氏、堤俊作氏を指揮に迎え、発展を遂げてきた。1924年には皇太子時代の昭和天皇ご成婚を祝す「摂政宮殿下御成婚 奉祝音楽会」にて、ベートーヴェン/交響曲第9番二短調「合唱つき」第4楽章の一部を日本人として初めて演奏。さらにはメンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」やハイドン (L.モーツァルト) /交響曲「玩具」などの日本初演を果たすなど、明治から大正時代にかけての日本のオーケストラを牽引してきた。2009年には九州大学に先立って創立100周年を迎えるとともに、永年にわたる音楽文化の向上や地域文化の振興に大きな役割を果たしていることにより、福岡市民文化功労賞を受賞。2014年には鈴木優人氏を九大フィル初代ミュージック・アドバイザーに迎え、さらなる活動の充実を図っている。2018年には200回目の定期演奏会を迎え、同年、東京のサントリーホールにて特別記念演奏会を開催した。さらに、2022年には東京オペラシティにて、第2回東京特別演奏会を開催し、活動の場を広げている。また2024年には、先述の第九日本人初演から100周年を記念して第九特別演奏会を開催。メンデルスゾーン/結婚行進曲、100年前に演奏した新編奉祝歌(第九第4楽章の一部替歌)、ベートーヴェン/交響曲第9番二短調「合唱つき」全曲を演奏した。定期演奏会の他にも、九州大学伊都キャンパス内の日本ジョナサン・KS・チョイ文化館でのクラシックセッション(アンサンブル演奏)の開催、九大祭や幼稚園での演奏など、地域に根差した文化活動を展開。官公庁や企業、学会からの依頼による出張演奏なども行っており、福岡県内の様々な場所において幅広い音楽活動を行っている。

